
名探偵と大怪盗。…長編ver.

美可

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名探偵と大怪盗。：長編ver.

【Nコード】

N1699B

【作者名】

美可

【あらすじ】

ある日、キッドの現場に足を運んでいたコナン。久々に逢うキッドにコナンは組織に乗り込む事を伝え、キッドと手を組む事に――。

No. 01 (前書き)

このお話は、短編の【名探偵と大怪盗。】を元にしたものです。組織に突入するまでの数週間の出来事と、対組織の話を長編にし、短編では書かなかったところまで書いていくつもりです。

なので、これを読む前に、プロローグとして短編の【名探偵と大怪盗。】を読む事をお勧めします。

それでは、どうぞ、お楽しみ下さいまし。

美可。

No. 01

コナンが屋上でキッドから衝撃的な事実を告げられた翌日。阿笠邸でコナンは哀と博士に昨夜の事を伝えた。哀はコナンからその事を知った時、かなり驚いた様だった。

「…そう。彼も組織の被害者だったのね」

「ああ。俺もそれ、聞いたときは驚いたぜ。パンドラとアポトキシン…。こいつはちよつと厄介な事件になるかもな」

コナンはそう言うのと、ソファアーに腰を掛けた。

「キッドも大変じゃのう。目的はそう言う事だったんじゃない…」

テーブルの上に珈琲を置き、一向(※)パソコンに向かっていた哀にも勧めると、博士もソファアーに座った。

コナンは、博士にお礼を言ってから珈琲を手に取り、一口飲んでから話を続けた。

「…と言う訳で、俺はアイツを仲間に入れたけど…」

「良いんじゃない？でも彼の命までは保証出来ないわよ」

座っていた椅子から降りて、哀はソファアーに近付きながら言った。

「その辺はアイツも分かってるだろ。現に、何度も危険な目に出会し(※)てるみたいだからな」

腕を組んでコナンは答えた。

確かに、怪盗キッドはパンドラを探し求め、ビッグジュエルとなる

宝石を幾度か盗んでいる最中に、危険な目にあっている。

しかし、それは組織の手下であって、ジンやウォッカの様にそれ程手強い相手ではなかった。組織との対戦となれば、当然の如く二人は勿論、他の仲間達と戦わなければならない。そうになると、今までの様な軽傷で済むとは到底思えないのだ。彼ら、黒の組織は無傷で帰そうなどとは思わないだろう。

「まあ、貴方が一体、どんな理由で彼を受け入れたのかまで深く追究はしないけど、組織に乗り込むとなると、無傷では帰ってこれないわね、きっと」

「だろうな。ま、無傷じゃなくても死ななきゃいいだけのことだろ」
「随分、強気なのね。もし、私がスパイだったら…」

どうするの、と後に続けようとしたが、言う前にコナンが先に反論してきたので言うことが出来なかった。

「それはないと信じてるからな。態々、アポトキシン4869を飲んでまでスパイにはならないだろ。それに、お前は自分が開発したアポトキシンのせいで何人もの犠牲者を出してる事に責任を感じてるって、前に言ってなかったか」

哀の言葉にコナンはニツと笑って自信たっぷり言い放った。

そんなコナンの自信に哀は何度、勇気付けられたことか数知れない。

哀はこんなことを聞いても目の前のコナンには愚問だと分かっていたが、いつかは聞いて置きたいと思っていた。

「愚問だったみたいね。…まあ、良いわ。ところで、その怪盗さん

との打ち合わせはいつするのかしら」

フツと嘲笑い（※）、珈琲を手にして再びパソコンデスクへと戻る哀。

「パンドラが見付かってからでも良いんじゃないか。これだけ探してるんだ、暫くすれば見付かるだろう」

「分かったわ。…それと、工藤くん」

カタカタとキーボードを打っていた手を止め、くるりと椅子を半回転させて哀は言った。

「アポトキシンの4869の解毒剤、後一週間くらい時間くれれば完成するわよ」

「本当かっ?!!」

「ええ。でも、完成しても直ぐには渡せないけどね。実験して成功したらの話」

「それでも構わないさ。…やっと、元に戻る日が来るんだな…」

解毒剤が完成すると聞いて、コナンはソファから勢い良く降りた。

後少して組織との戦いが始まる――。

キッドが新しく仲間に加わり、更にコナンも新一の姿に戻れたら、何も言うことはない。

早く、パンドラを探し出し、組織を潰さなければ……。

今のコナンには、妙な喜びと焦り、そして緊張が身体中に漂っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1699b/>

名探偵と大怪盗。…長編ver.

2010年12月18日21時23分発行